





# 花と色





花き装飾コース

## 1. 目的

国内視察研修で色をテーマにしたことで色に興味を持ち、さらに色についての知識を深めたいと思った。また、インターンシップを通して、花束制作やラッピング時に花や色の組み合わせに悩むことがあった。色の組み合わせやラッピングの技術向上のために、色をテーマとして花束制作やディスプレイ制作を行うこととした。


## 2. 制作

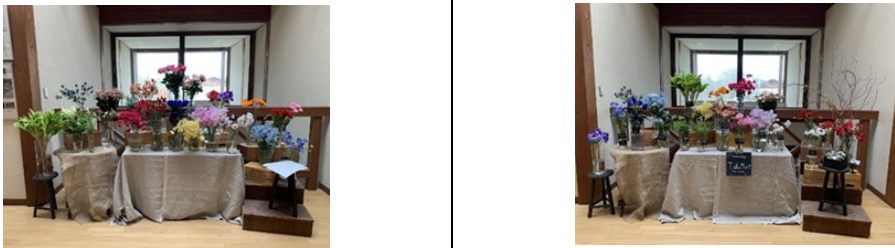
ピンク系の花束（同系色）				
				
学 ん だ 点	<ul style="list-style-type: none"><li>・同系色の花束は、統一感があり、まとまった印象になる。 →個々の花色が近すぎると、花色の違いがハッキリしないため、同系色でも濃淡や明暗をつけた方がよいと感じた。</li><li>・同系色であればどの組み合わせでもよいということではない。 →同系色でも、アンダートーンを合わせる必要があると感じた。</li></ul>			

ピンク系の花束（補色）				
				
学 ん だ 点	<ul style="list-style-type: none"><li>・補色の花束は、コントラストがハッキリした印象になる。 →互いの色を引き立てあうため、個々の花色が引き立つと感じた。</li><li>・補色の組み合わせの色の中に、白色を入れることで、バランスを取ることができると感じた。</li></ul>			

### <学んだ点>

- ・濃い色の花や重い印象の花を埋め、薄い色の花や軽い印象の花を出すと立体感が出る。
- ・花束の左右や奥行きの色濃淡のバランスが均等になるように花を入れることが大切。
- ・色や形状、質感の異なる花を隣り合わせにすることで、個々の花が引き立つ。
- ・同じ種類の花を複数本、グルーピングする時は、1番大きな花を1番低くする。
- ・マスフラワー、ラインフラワー、フォームフラワー、フィラフラワーをバランスよく組み合わせるとそれぞれの花の特徴を活かす。

立体的な土台でのディスプレイ	
	
学んだ点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花が取りやすいように、足を入れる隙間を確保しながら土台を組む。</li> <li>・手前の花の高さが低いと、花を取る際に体が当たるため、花が傷つき、痛みの原因になる。</li> <li>・花の高さや、花と花の間隔に違いを持たせることで動きのあるディスプレイにすることができる。</li> </ul>

平面的な土台でのディスプレイ	
	
学んだ点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面的な土台に階段状の土台を組み合わせる場合は、そこあげをして花の高さを揃えた方がよいと学んだ。</li> <li>・季節感のある商品や売れ筋商品はお客様の目に届きやすく、手に取りやすい中央に配置した方がよい。</li> </ul>

#### <学んだ点>

- ・アンダートーンを繋ぐときはどちらの色も併せ持った花を間に入れると、グラデーションがより際立つ。
- ・色や形状、質感の異なる花を隣合わせにすることで、個々の花が引き立つ。
- ・同系色でまとめると統一感はあるものの、個々の花の違いが分かりづらい。  
→花と花の間にグリーンを入れることで、個々の花色や形がハッキリする。
- ・花の本数や長さに合わせて、花瓶を選ぶことが大切。
- ・お客様の目線になって花の高さや取りやすさを考えてディスプレイする。

### 3. まとめ

花束制作やディスプレイ制作を通して、使用する色や組み合わせる色によって人に与えるイメージや効果が違うと学ぶことができ、色の奥深さを感じた。また、花の色だけでなく、形状や質感の組み合わせによってもそれぞれの花の見え方に違いが生まれることを学んだ。そのため今後は、さらに色についての知識を深め、さまざまな色の組み合わせに挑戦していきたいと感じた。

卒業制作を通して得ることのできた知識や技術を就職後に活かし、お客様を笑顔にできるフローリストになりたいと思う。